

# 令和3年度 事務事業点検評価報告書

令和4年8月

舞鶴市教育委員会

## 目 次

1 事務事業の点検評価の趣旨	.....	1
2 点検評価の概要	.....	1
3 各事業の評価	.....	3
4 教育委員会活動の概要	.....	18

## 1 事務事業の点検評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について評価委員による点検及び評価を行い、その結果について公表しなければならないことと定められています。

この度、令和3年度に執行した事務事業について、評価委員による点検及び評価を行いました。

この結果を踏まえ、事業の必要性、有効性、効率性の検討を行い、今後より一層充実した事業の推進に努めてまいります。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋） （教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等） 第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。
--

## 2 点検評価の概要

舞鶴市教育委員会の権限に属する令和3年度の主な事務事業について、事業の目的、内容、成果等について評価委員が下記の評価の視点に基づき、評価を行ったものです。

### (1)実施日

令和4年7月28日（木）

### (2)評価委員

(敬称略)

所 属 団 体 等	氏 名
高等教育機関等表 代 独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校長	内海 康雄
学 識 経 験 者 元中学校長	福島 治
学 識 経 験 者 元小学校長	村川 広美

### (3)点検評価事業

No	事業名	担当課
1	不登校支援等推進経費	学校教育課
2	英語指導助手設置経費	
3	小中一貫教育推進事業費	
4	学校給食運営経費（小学校・中学校）	
5	未来を拓く学びの環境整備事業費（小学校・中学校）	教育総務課 学校教育課
6	特別支援教育支援員設置経費（小学校・中学校）	学校教育課
7	地域運動部活動推進事業費	
8	夢チャレンジサポート事業費	
9	特色ある教育活動支援事業費補助金（小学校・中学校）	教育総務課
10	施設整備事業費（小学校・中学校）	
11	学校施設新型コロナウイルス感染症防止対策経費（小学校・中学校）	

### (4)評価の方法

#### ① 評価の視点

点検評価では、各事業の評価を行うにあたり、次の視点で評価委員に考察、評価を行っていただきました。

区分	視点
必要性	市民ニーズや社会情勢に適合しているか。市が事業を担う必要があるか。
有効性	事業目的に照らして、効果が現れているか。
効率性	実施方法などについて成果に見合ったコストになっているか。

#### ② 評価判断基準

評価は「必要性」「有効性」「効率性」について、各評価委員に次のとおり5段階で評価いただき、その平均を点数化しました。

	5	4	3	2	1
必要性					
有効性	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
効率性					

### 3 各事業の評価

#### 教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和3年度事業)

事務事業名	不登校支援等推進経費	担当課	学校教育課	事業No	1
事業費 (R3決算)	14,220 千円	財源内訳	一般財源	8,867 千円	
			国府補助金等	5,353 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</p> <p>2 子どもを育てる教育環境の充実</p> <p>3 ふるさとを愛する教育の推進</p> <p>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</p> <p>5 心豊かな生涯学習の推進</p>				
	<p>・個性を伸ばし夢をかなえる学校教育の充実</p> <p>・心身ともに健全な子どもの育成</p>				
事業目的	<p>心理的要因等により不登校となっている児童生徒に対し、学校生活への復帰と社会的自立を支援するため、学校と教育支援センター(名称:明日葉(あしたば))が連携し、集団生活への適応や情緒の安定、学力の補充、基本的な生活習慣の改善等のための相談・適応指導を行う。</p> <p>また、教育支援センターにいじめ相談室を併設し、いじめ防止、早期発見、早期対応を図るとともに、いじめ相談ダイヤル等により、きめ細かな相談・対応を行う。</p> <p>京都府教育委員会認定フリースクール「聖母の小さな学校」と明日葉、学校が連携して、児童・生徒への様々な支援を行う。</p>				
事業内容	<p>1. 教育支援センター(明日葉)の概要</p> <p>(1) 事業内容 適応指導、学習指導、訪問指導、教育相談、いじめ相談等</p> <p>(2) 子ども相談員 2名、臨床心理士 1名</p> <p>2. チャレンジアウトドアライフ事業の実施</p> <p>不登校児童生徒を対象とした野外体験活動の実施</p> <p>3. いじめ相談室の概要</p> <p>いじめ相談員2名 いじめ相談ダイヤル・いじめ相談メールを開設</p>				
当該年度の 取組成果 達成状況	<p>1. 教育支援センターでの適応指導、学習指導、訪問支援、教育相談等の取組</p> <p>来所相談(68件)電話相談(159件)訪問支援(15件)はがき支援(39件)</p> <p>2. チャレンジアウトドアライフの実施(延べ 12名参加)</p> <p>グリーンスポーツセンター野外活動</p> <p>3. 長期欠席している児童生徒が学校復帰や高校進学に向け、通級し目標を達成するなど、「明日葉」に通級等している児童生徒20名(小学生6名、中学生14名)のうち、学校へ復帰した児童生徒が15名(小学校4名、中学校11名)となった。</p> <p>4. いじめ相談室の相談状況</p> <p>電話相談151件、来所相談79件、メール相談0件、学校訪問44件</p> <p>5. フリースクールとの連携</p> <p>支援員2名、フリースクールと学校・市教委との連携懇話会</p>				
課題	<p>人間関係づくりに時間を要し、また、個別の状況に応じた対応が必要なため、経験豊かな相談員が児童生徒と信頼関係を築く中で取り組む必要がある。</p>				
今後の 方向性	<p>明日葉やいじめ相談室の活動を通して、不登校児童生徒への対応といじめ相談の充実を目指す。</p> <p>また、学校でいじめや嫌なことがあっても先生や友達に相談できない子どもたちや、子どものことで悩んでいる保護者に対し、1人で悩まずに相談できる体制の充実を図る。</p>				
評価委員 による 事業の評価	評価点数	5.0			
	必要性	<p>・今後とも重要性は増すものと思う。</p> <p>・不登校は舞鶴市において、以前から最大の教育課題である。</p> <p>・長期的展望を持って、あらゆる角度から支援する必要がある。</p> <p>・不適応になる児童生徒の居場所として、さらには、学校生活への復帰と社会的自立を支援する場として、相談・適応指導を行う場は、必要不可欠である。</p>			

評価委員 による 事業の評価	有効性	評価点数	4.3	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の状況に合わせた体制と指導が行われている。</li> <li>・「明日葉」に通級等の児童生徒のうち、学校に復帰した児童生徒が多く、一定の効果がみられる。</li> <li>・いじめ相談室への相談件数が比較的多いようだが、深刻な状況に至っていないのは丁寧に対応されているのではないか。</li> <li>・相談・適応指導によって、不登校になってしまった児童生徒の学力の補充、基本的な生活習慣の改善に一定の成果がある。</li> </ul>		
	効率性	評価点数	4.0	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会なども行われていて、効果は高いと考える。</li> <li>・「明日葉」「いじめ相談室」「フリースクール」の広報、さらに形式的ではなく、定期的に学校訪問をし、連携していく必要がある。</li> <li>・学校に復帰した児童生徒の復帰要因を分析し、効果的な方法が打てる可能性を追求していく必要がある。</li> <li>・市役所全体の問題として各課が連携して取り組むことや特別支援教育の視点からのアプローチを望む。</li> <li>・不登校の予防的取組の改善・充実が課題である。学校現場で不適應を起こすサインを出している早期に、児童生徒の状況の分析を的確に行い、心理的にもつながるキーパーソンが存在、また、保護者を含む支援など、様々な専門家がアドバイスできる仕組み作りが必要と考える。</li> <li>・いじめ相談に関しては、子どもや保護者が相談しやすい広報やつながる術（電話にかわるSNSの活用など）の改善も今後は必要ではないか。</li> </ul>		

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和3年度事業)

事務事業名	英語指導助手設置経費	担当課	学校教育課	事業No	2
事業費 (R3決算)	18,691 千円	財源内訳	一般財源	10,124 千円	
			国府補助金等	8,567 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</li> <li>2 子どもを育てる教育環境の充実</li> <li>3 ふるさとを愛する教育の推進</li> <li>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</li> <li>5 心豊かな生涯学習の推進</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">グローバル社会に対応する教育の推進</div>				
事業目的	英語指導助手を配置し、外国人から直接、生きた英語を学ぶとともに、小中学校の各段階を通じた英語教育の充実と国際理解教育を推進する。 また、英語以外の場で、目的をもって外国人とコミュニケーションをとることで英語学習に対する意欲を高める。				
事業内容	(1)小学校3・4年生 英語活動で英語指導助手を配置し、英語の授業補助(発音指導など)、教材作成の補助を行う。 (2)小学校5・6年生、中学生 イングリッシュシャワーデーの実施や、授業補助(発音指導など)、教材作成の補助、英語担当教員に対する研修を行う。				
当該年度の 取組成果 達成状況	英語指導助手4名を配置し、外国人から直接生きた英語を学ぶとともに、その出身国の状況等を学ぶなど、英語教育の充実と国際理解教育の一層の推進が図れた。 (学校訪問 延べ846回)				
課題	できるだけ早い時期から「英語」の発声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養い、中学校卒業段階で英検3級程度の英語力を身に付けさせるという文科省の目標に近付くため、英語担当教員の指導力向上や事業のさらなる充実が求められる。				
今後の 方向性	令和2年度から新学習指導要領により小学校5・6年生の英語が教科化され、英語教員を配置している。引き続き、英語担当教員の指導力の向上を図る。				
評価委員 による 事業の評価	必要性	評価点数	4.7		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語によるコミュニケーションは将来に使う場面が多くなるので、児童・生徒が備える上で大切である。</li> <li>・グローバル社会に対応するためには英語指導助手の配置は極めて高い。</li> <li>・話せる英語教育は必要であり、英語指導助手の役割は重要である。</li> <li>・グローバルな時代を生きる子どもたちに、外国の先生と交わるだけでも意義が有り、英語でコミュニケーションを図ることができる機会を義務教育の場で担保するのは必要である。</li> </ul>			
	有効性	評価点数	4.7		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTは事前に研修を受けるなど工夫されている。</li> <li>・イングリッシュシャワーデーは英語力の向上に有効であり、さらに回数を増やす必要がある。</li> <li>・英語指導助手の配置はその国を知ることにも有効である。</li> <li>・現場は、ネイティブな英語指導助手がいることで効果が上がっている。</li> </ul>			
	効率性	評価点数	4.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネイティブに限らず、市内の人材を活用してはどうか。</li> <li>・児童生徒が英語で話しかけることに物怖じしないということだった。児童生徒の意見を反映させることも大切だと思う。</li> <li>・英語指導助手の指導力の向上がさらに必要である。市としてリーダーとなる教員の養成、市の特性を理解する英語指導助手の研修の必要性が求められる。</li> <li>・小学校1, 2年生の英語活動も視野に入れ、英語指導助手の増員を望む。</li> <li>・課題とする英語担当教員の指導力の向上を図るには、優れた指導力を持つ教員や研修を終えた教員を、1名指導主事的な役割で市に配置し、日々、各校の授業を回って具体的に伝授・指導していくような仕組みも必要ではないか。</li> </ul>			

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和3年度事業)

事務事業名	小中一貫教育推進事業費	担当課	学校教育課	事業No	3
事業費 (R3決算)	6,188 千円	財源内訳	一般財源	6,009 千円	
			国府補助金等	179 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<p>① 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</p> <p>2 子どもを育てる教育環境の充実</p> <p>3 ふるさとを愛する教育の推進</p> <p>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</p> <p>5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>切れ目ない教育の推進</p>				
事業目的	<p>義務教育9年間を連続した期間と捉え、児童生徒の発達の段階に応じた一貫性のある学習指導・生徒指導を行うとともに、教職員や児童生徒が連携・交流を深めることにより、小学校と中学校が協働して系統的・継続的な教育を推進することで、子どもの学力定着と学校生活への適応(中1ギャップの解消)を目指す。</p> <p>市内の幼児教育施設の保育者と小学校の教員が協働して、「幼小接続期カリキュラム」を作成・実施するとともに、施設種・設置者を越えた、幼児教育の質の向上を図る。</p>				
事業内容	<p>① 市内全中学校区(7中学校区)に小中一貫教育を導入し、以下の支援を実施。 (導入実績:28年度 城北・加佐、29年度 青葉・和田、30年度 白糸・城南・若浦)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2名のコーディネーター(指導主事)による指導・助言</li> <li>・小小・小中連携交流事業の実施に伴う移動手段(バス等)の手配</li> <li>・各中学校区の取組状況の発信(ホームページ、ニュースター)他</li> </ul> <p>② 小学校高学年で一部教科担任制を実施</p> <p>③ 中学校教員による小学校への乗入れ授業を実施</p> <p>④ 市内の幼児教育施設と小学校が連携協力園校を組み、生活科の連携活動を中心に子ども同士や保育者と小学校教員との交流を実施(市内全小学校18校と27の幼児教育施設)</p>				
当該年度の 取組成果 達成状況	<p>平成28年度から順次、導入を進め、平成30年度に全中学校区に導入した。 教育委員会として必要な支援を行いながら、小中一貫教育を一層推進していく。</p>				
課題	<p>小中一貫教育の教育的効果が目に見える形で現れるよう、導入の成果や課題を把握・整理し取組を改善していく必要がある。</p>				
今後の 方向性	<p>今後も小中一貫教育の取組が形骸化することがないように児童生徒・学校・地域の実情等を踏まえながら、教育委員会としてサポート体制の充実や取組の改善を進めていく。</p>				
評価委員 による 事業の評価	必要性	評価点数	4.7		
		<p>・中1ギャップの解消などに必要である。一方で、すべての小中学校が小中一貫になることは、現時点では難しいと思う。</p> <p>・中1ギャップ解消や小学校入学時の不安解消には必要である。</p> <p>・学力の定着や向上には小中一貫教育は必要である。</p> <p>・スムーズな接続は、子どもにとって必要。</p>			
	有効性	評価点数	4.0		
		<p>・小学校と中学校との教員の間で情報共有が進み、課題の解決が期待できる。</p> <p>・中学校区内の保幼小中の教職員が顔を合わせるだけでも、信頼関係が生まれる。</p> <p>・幼児教育と小学校の連携は、地道に進んでいる。小中の連携は、中学校教員の乗入れ事業で、進みつつあるが、全教員の意識が高まる有効な研修や事業が進んでいるかの検証が必要ではないか。</p>			
	効率性	評価点数	3.0		
		<p>・共有したノウハウなどを得られる仕組みがあればよいと思う。</p> <p>・小規模校では比較的取組みやすいが、複数の小学校がある中・大規模中学校では難しい。長期的展望を持って小・中学校を一つの施設としたモデル校を設置するのにも一案ではないか。</p> <p>・教員の時間的負担が大きく、交流の方法を工夫する必要がある。</p> <p>・小中一貫校にかじきりをするのはハードルが高いが、福井県のように小中の先生間の異動の実現も視野に入れてはどうか。</p>			



教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和3年度事業)

事務事業名	学校給食運営経費(小学校・中学校)	担当課	学校教育課	事業No	4
事業費 (R3決算)	451,569 千円	財源内訳	一般財源	303,869 千円	
			国府補助金等	147,700 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進                  2 子どもを育てる教育環境の充実                  3 ふるさとを愛する教育の推進                  4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実                  5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>心身ともに健全な子どもの育成</p>				
事業目的	安心・安全で栄養バランスのとれた魅力ある学校給食を全小・中学校で実施する。				
事業内容	1. 小学校全18校に栄養士を配置し、自校調理方式により給食を実施 2. 中学校全7校でスクールランチ方式による給食を実施 3. 地場産野菜、舞鶴産水産物・舞鶴産コシヒカリなど、地元産の安全な食材を使用 4. 食育の推進				
当該年度の 取組成果 達成状況	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調理食数 延812,986食(R3.5.1児童数 4,036人他)</li> <li>地場産物(万願寺甘とう、舞鶴のさかな等)についての食育授業</li> <li>引き揚げの日献立を給食に取り入れ、引き揚げの歴史を学習</li> <li>食物アレルギー児童(264名)への対応</li> </ul> <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調理食数 延395,909食(R3.5.1生徒数 2,097人他)</li> <li>教育委員会の栄養士が献立を作成</li> <li>生徒が給食の献立作り(これまでの給食を参考に組み合わせる)に挑戦、採用</li> <li>引き揚げの日献立を給食に取り入れ、引き揚げの歴史を学習</li> <li>食物アレルギー生徒(102名)への対応</li> <li>「食育だより」を月1回発行し、各校へ配布(ホームページで公表)</li> <li>アンケート実施</li> </ul>				
課題	年々、増加するアレルギー児童・生徒の除去食等の確実な対応と中学校での食育指導の充実が必要である。				
今後の 方向性	今後とも、引き続き、安心・安全で地産地消を積極的に取り入れた魅力のある給食の提供に努める。				
評価委員 による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要な食育を担っている不可欠な事業だと思う。</li> <li>様々な家庭環境がある中、すべての児童生徒に栄養バランスのとれた魅力ある学校給食は必要である。</li> <li>保護者の負担軽減、すべての児童生徒にとって食の保障となっている。</li> <li>様々な家庭環境がある中で、栄養バランスの整った給食の提供は、心身共に健全な成長に重要な役割を担っている。</li> </ul>				
評価委員 による 事業の評価	有効性	評価点数	5.0		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地場産物、引き揚げの日など、地域にいたることを実感する取組は有効である。</li> <li>地産地消に取組み、ふるさとを愛する児童生徒を育てることに一役を担っている。</li> <li>中学校のスクールランチ形式の有効性を見直し、改善されることを望む。</li> <li>給食提供は、子どもたちの心身の成長に、大いに貢献している。</li> </ul>				

評価委員 による 事業の評価	効率性	評価点数	4.7	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギーへの対応などを行っており、効果が上がっている。</li> <li>・中学生へのアンケート結果が活かされ、給食が好きな生徒が増えている。さらにメニューや味の工夫をされ、残食率を減少されることを望む。</li> <li>・感染症対策やアレルギー児童生徒への対応を引き続き努力していただきたい。</li> <li>・小学校の栄養士の配置、自校調理方式による給食は、食育の点からも申し分ない。その延長上に中学校の給食提供があるとよい。中学校も自校調理方式になると良いが様々な課題の克服には、「食べられることへの感謝」とともに、年齢を追って、日本の、世界の食糧事情にも目を向けられる人に育てるような科学的社会的な食の指導の充実が必要な時代になったことも取り入れて欲しい。</li> </ul>		

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和3年度事業)

事務事業名	未来を拓く学びの環境整備事業費 (小学校・中学校)	担当課	教育総務課 学校教育課	事業No	5
事業費 (R3決算)	96,413 千円	財源内訳	一般財源 79 千円 国府補助金等 96,334 千円		
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</li> <li>2 <b>子どもを育てる教育環境の充実</b></li> <li>3 ふるさとを愛する教育の推進</li> <li>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</li> <li>5 心豊かな生涯学習の推進</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     学校等における教育環境の充実                 </div>				
事業目的	GIGAスクール構想の更なる加速・強化等による新たな時代に相応しい教育を実現するため、本市の学校におけるICT環境の更なる充実を図る。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害時に避難者への通信インフラ環境の整備 大規模災害時、学校全体が避難場所となりうるため、市立小中学校25校の特別教室にWi-Fi整備</li> <li>○動画編集用PC設定業務委託 昨年度調達の動画編集用PC等を学習系ネットワークで使用できるよう設定 動画編集用PC(Macbook) 28台、画面伝送装置(AppleTV) 21台</li> <li>○特別支援教育入出力支援装置 児童生徒の特性に合わせたタブレット端末の操作に必要な機器調達及び教材読み上げソフトライセンス購入(29ライセンス)</li> <li>○カラーレーザー複合機設置 ICT機器を効率的に活用できる、ネットワーク対応の複合機を導入</li> </ul>				
当該年度の 取組成果 達成状況	災害時に避難者への通信インフラのための環境整備として、全小中学校の特別教室へのWi-Fi整備や児童生徒の特性に合わせたタブレット端末の操作に必要な機器の調達などに取組み、予定どおり完了した。				
課題	ICTを効果的に活用した授業を推進するためには、教員のICT活用指導力の向上が重要であり、教員に向けて実施している研修を継続して行う必要がある。				
今後の 方向性	ICTを効果的に活用した授業を推進するために、教員のICT活用指導力の向上を図る。各校の担当教員を中心として、ICT活用の観点から位置付けられた年間指導計画の作成と実践に向けた研修・研究を実施する。災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICT機器の活用により全ての子どもたちの学びを保証できる環境を整備する。				
評価委員 による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・IoTの時代に入っており、この取組は不可欠だと思う。</li> <li>・教育分野におけるICT機器の活用は現代社会において極めて必要である。</li> <li>・コロナ感染症が広がっているなか、オンライン授業や教員と児童生徒のコミュニケーションをとる手段などにも必要である。</li> <li>・ICT化、重災害・感染症の時代にあつて、早急な環境整備は重要である。</li> </ul>			
	有効性	評価点数	5.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1台の環境に加えて、動画編集の環境整備は教育内容の充実として相応しい。</li> <li>・GIGAスクール構想に則り、舞鶴市のハード面の充実には目を見張るものがある。</li> <li>・災害時に避難者への通信も整備され、安心・安全な生活の一助となっている。</li> <li>・「GIGAスクール構想」は費用・準備・整備に膨大な尽力があつたことと推察される。コロナ禍にあつて、タイムリーに整備された環境をうまく活用されている。</li> </ul>			
	効率性	評価点数	4.3		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の機器更新時への対応をお願いしたい。</li> <li>・教員の指導力を向上させるための研修とサポートが不可欠である。</li> <li>・保護者からも活用の状況をうかがうことがあり、有効活用されている状況がある。今後も学校や教員の力量によって格差が出ないよう、市全体で取組の研修や交流を図り、有効活用を願いたい。</li> </ul>			

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和3年度事業)

事務事業名	特別支援教育支援員設置経費 (小学校・中学校)	担当課	学校教育課	事業No	6
事業費 (R3決算)	41,152 千円	財源内訳	一般財源	41,152 千円	
			国府補助金等	0 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</li> <li>2 子どもを育てる教育環境の充実</li> <li>3 ふるさとを愛する教育の推進</li> <li>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</li> <li>5 心豊かな生涯学習の推進</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">個性を伸ばし夢をかなえる学校教育の充実</div>				
事業目的	通常学級、特別支援学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童・生徒に対し、適切な対応を行うため、各小中学校に特別支援教育支援員を配置する。				
事業内容	支援員の配置 ・小学校11校に「29名」 ・中学校 7校に「22名」				
当該年度の 取組成果 達成状況	年度当初、教育上特別な支援を必要とする児童生徒は、小学校は18校に535名、中学校は7校に308名が在籍。対象児童生徒へ適切に対応するため、小学校11校に「29名」、中学校7校に「22名」の特別支援教育支援員を配置した。 通常学級、特別支援学級に在籍する教育上特別な支援を必要とする児童生徒の個々の教育的ニーズに応える特別支援教育の充実に努めた。				
課題	特別な教育的支援を必要とする児童生徒が年々増加傾向にある中、支援員の確保が課題となっている。				
今後の 方向性	今後とも、通常学級、特別支援学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、支援員を配置し、適切な教育(支援)を推進していく。				
評価委員 による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
		・舞鶴市が独自に取組んでおり、行き届いた対応である。 ・特別な支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあり、支援員の配置は特に必要である。 ・年々特別な支援を要する児童生徒が増加傾向にある中で、子どもにとっても教員にとっても必要な支援である。			
	有効性	評価点数	4.7		
		・支援的な立場のスタッフを増やすことにより、個別の児童生徒の対応が可能となったと思われる。 ・担任にとっては支援員が配置されることで、負担が軽減され、また児童生徒が支援員にも関われ、人間性が発展でき有効である。 ・児童生徒や保護者の信頼を深め、学習や生活に効果を上げている。 ・インクルーシブ教育が進められる中、特別支援教育支援員の配置により、必要な支援が受けられている。			
	効率性	評価点数	4.3		
		・配置人数は実情に沿ったものであり、評価できる。 ・支援員のさらなる確保と資質の向上が求められる。 ・市の一般財源から支援員が配置されているということは、市の特別支援教育に力を注いでいることが感じられ、大変ありがたい。引き続き配置を望む。 ・支援員が単に教員の仕事の援助にならないよう、採用に当たって、仕事内容・支援内容や有効な支援についての研修、支援員同士の交流の場が設けられると質の高い支援が提供できる。			

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和3年度事業)

事務事業名	地域運動部活動推進事業費	担当課	学校教育課	事業No	7
事業費 (R3決算)	432 千円	財源内訳	一般財源	2 千円	
			国府補助金等	430 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</li> <li>2 子どもを育てる教育環境の充実</li> <li>3 ふるさとを愛する教育の推進</li> <li><b>4</b> 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</li> <li>5 心豊かな生涯学習の推進</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     家庭・地域との連携による教育と子育て支援の推進                 </div>				
事業目的	「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」を踏まえ、中学校の休日の部活動を令和5年度以降、段階的に学校教育から切り離し、地域スポーツに移行することで、生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の実現を図ることを目的として、実践研究に取り組み、地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題に総合的に取り組む。				
事業内容	舞鶴市にある地域総合型スポーツクラブ(舞鶴ちゃったスポーツクラブ)に人材バンクを設立し、その人材バンクに登録された指導員が、「剣道」「柔道」「陸上」の地域部活動で指導を行う。 ・事務員の配置、部活動指導員謝礼、部活動参加者保険料、会場使用料				
当該年度の 取組成果 達成状況	・地域総合型スポーツクラブに人材バンクの設置 ・人材バンクへの指導者登録(剣道4名、柔道0名、陸上10名) ・地域部活動実績(剣道8回、柔道0回、陸上1回)延べ246人参加 ・参加した生徒の満足度・・・大変満足23%、満足56%				
課題	・今年度の部活動種目としては個人種目であったため、実施しやすい種目での実施となった。 ・コロナ禍で行動制限がかかり実施出来ないことが多々あった。 ・地域人材の確保や費用負担のあり方、運営団体の育成等について課題を認識した。				
今後の 方向性	・来年度は団体種目や、学校部活動にない種目についても取り組む。 ・コロナ禍での活動には十分な感染対策を行い実施する。 ・連盟の協力が得られるよう、丁寧な説明と協力依頼を実施する。				
評価委員 による 事業の評価	必要性	評価点数	4.0		
		・学校の業務上の課題となっている部活の指導において、必要な措置である。 ・中学校教員にとって部活動指導は負担になっている。働き方改革だけでなく、専門的な技術面からも今後地域人材を活用した取り組みを充実させる必要がある。 反面、中学校の部活動は教員と生徒の信頼関係を築き、生徒指導面で大きなウエイト占めている。部活動での指導は重要であり、有効的な関わりを模索していかなければならない。 ・令和2年度の「学校への配置」から、「段階的に学校教育から切り離し、地域スポーツに移行」への方向転換には、一定の協議が必要ではないか。 ・この分野は、学校教育課が担当ではなく、地域スポーツの振興という点で担当課との連携が必要ではないか。			
有効性	有効性	評価点数	3.3		
		・舞鶴市全体のスポーツの姿と小中学校での活動を考える上で有効。 ・人材バンクの設立はこの事業にとって重要である。人材確保のため、市が主導し、広く募集することも必要ではないか。 ・学校における体育・文化を問わずクラブ活動の意義と重要性も含めて、現場の教員、連盟、そして、なにより子どもたちや保護者の願いを受け止めることも必要ではないかと考える。働き方改革＝切り離すというのは、情熱や使命感を持った教員の質の低下も招きかねない。			

評価委員 による 事業の評価	効率性	評価点数	3.3	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた予算の中で、16時以降に部活に取り組んでいただける人材を登録できている。今後、施設の相互利用なども視野に入れていただきたい。</li> <li>・中学校部活動指導員配置事業の継続、発展を望む。1中学校に1名の部活動指導員の配置から、さらに指導員を確保し、1中学校に複数の指導員を配置させる取組を進めてはどうか。また休日の部活動もその指導員に委ねてはどうだろうか。</li> <li>・クラブ活動で高める力は、夢の実現へも直接的・間接的に意義があることを踏まえて、学校教育として、クラブ活動の意義を整理する必要があるのではないか。また、内容(種目)に限定(偏り)がある課題をどう改善するか先が見えない。</li> </ul>		

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和3年度事業)

事務事業名	夢チャレンジサポート事業費	担当課	学校教育課	事業No	8
事業費 (R3決算)	8,127 千円	財源内訳	一般財源	4,067 千円	
			国府補助金等	4,060 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</p> <p>2 子どもを育てる教育環境の充実</p> <p>3 ふるさとを愛する教育の推進</p> <p>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</p> <p>5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>・個性を伸ばし夢をかなえる学校教育の充実</p> <p>・ふるさと学習の推進</p>				
事業目的	子どもたちの夢を育み、その夢の実現を支え、将来、社会に貢献できる人材を育成するために、学力向上に向けた支援を行う。				
事業内容	<p>1. 学力チャレンジ…生徒の学力状況を把握し、学習改善につなげるとともに生徒が自分の学力を把握し進路実現に活かすため、中学校で各学年統一の学力診断テストを実施。</p> <p>2. 検定チャレンジ…舞鶴市在住の中学生を対象に英語検定料を補助。(2級、準2級、3級受験者に全額補助)</p> <p>3. 夢講演会…生徒が将来の夢を考えるきっかけとするため外部講師による講演会を実施。</p> <p>4. 夢サポート事業…各学校の学力向上、教職員の資質の向上等の取組や、地域の特色を活かした教育活動を支援。</p>				
当該年度の 取組成果 達成状況	<p>1. 学力チャレンジ…舞鶴市統一学力診断テスト(夢チャレンジテスト・5教科) 市内7中学校 全学年 2,097名が受験 ※順位の開示を希望した保護者 … 90.8%</p> <p>2. 検定チャレンジ…英語検定(5月、10月、1月)にチャレンジした生徒延べ349名に検定料を補助 くうち、合格者&gt; 2級3名、準2級46名、3級212名、計 261名</p> <p>3. 夢講演会…実施なし</p> <p>4. 夢サポート事業…各学校ごとに特色ある取組を実施</p>				
課題	全ての生徒が将来の夢や目標を持つとともに、その実現へ向け、学習意欲を高めることが必要				
今後の 方向性	子どもたちの夢を育み、その夢の実現を支えるため、引き続き、各事業を実施していくとともに、舞鶴市統一学力診断テストにより学力定着状況を把握し、指導改善に活かしていく。				
評価委員 による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
		<p>・児童生徒が、自身の立ち位置を考えるための、良い取組だと思う。</p> <p>・学力の向上や意欲の向上に有効な事業である。また、生徒の希望進路実現にも有効である。</p> <p>・子どもたちが、夢を持ち、その実現へ向けて自らを向上させようとする機会を作り、また、その努力を図る機会を公費で支援するのは有用な事業である。</p>			
	有効性	評価点数	4.7		
		<p>・事情が許せば、夢講演会を開催していただきたい。児童生徒の視野が広がると思う。</p> <p>・検定チャレンジの合格者が増え、学習意欲の向上とともに、将来の夢や目標の実現につながっている。</p> <p>・義務教育の間、経済的格差がある中で、全ての子どもたちの可能性を拓くために有効である。</p>			
	効率性	評価点数	4.3		
		<p>・検定チャレンジで70%以上が資格を取れたことは評価できる。</p> <p>・学力チャレンジの結果をどう教員が活用しているのか、また学力向上にどう活かされているのかが分かりづらい面がある。</p> <p>・夢チャレンジサポート事業を小学校高学年にも拡大してはどうか。</p> <p>・英検4級、理科検定の検定料補助もあってもよいのではないか。</p> <p>・公費を使う限りは、数値的な分析が必要ではないか。例えば、英検を受験する子は、塾へ行っているかいないか。つまり、経済的格差や家庭の状況に左右されることなく、学校の授業の延長で受験をし、学力や英語力、意欲が高まっているのか等の分析も必要ではないか。</p>			

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和3年度事業)

事務事業名	特色ある教育活動支援事業費補助金 (小・中学校)	担当課	学校教育課	事業No	9
事業費 (R3決算)	5,949 千円	財源内訳	一般財源	5,753 千円	
			国府補助金等	196 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</li> <li>2 子どもを育てる教育環境の充実</li> <li>3 ふるさとを愛する教育の推進</li> <li>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</li> <li>5 心豊かな生涯学習の推進</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ふるさと学習の推進</div>				
事業目的	<p>地域の方々などの協力のもと、地域に根ざした特色ある学校づくりや教育活動を推進するための支援を行う。</p> <p>豊かな体験活動を実施し、「生きる力」の核となる「豊かな人間性」を育てるとともに、本市の特色ある歴史や豊かな自然について学び、「ふるさと舞鶴」への愛着を育む。</p>				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育活動支援事業 地域の方々などの協力による特色ある教育活動を支援。 小学校6年生の社会科学習で引揚記念館を見学する「ふるさと学習」を実施。</li> <li>2. 地域ふれあい体験活動事業 職場体験(小学4年生、中学2年生)、支援学校との交流、地域課題学習、伝統的文化活動など 通年の教育活動として体験活動を実施</li> </ol>				
当該年度の 取組成果 達成状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育活動支援事業 総合的な学習の時間、体験活動、野外活動、クラブ活動、部活動等において、地域の方々の協力のもと特色ある教育活動の支援を実施した。</li> <li>2. 地域ふれあい体験活動事業 地域や学校の実態に応じて創意工夫し、職場体験(小学校では仕事についての学習や体験活動を含む)、農業体験など通年の教育活動として体験活動を実施した。 小・中学校での地域人材等による取組や、全校で実施の小学5年生の野外活動、6年生の「引揚の歴史を学習するふるさと学習」、中学2年生の職場体験活動など、特色ある教育活動を通して、ふるさと舞鶴を愛するふるさと学習の推進を行うとともに、豊かな人間性の育成を図った。</li> </ol>				
課題	ふるさと学習に協力いただける幅広い地域人材の発掘。				
今後の 方向性	「豊かな人間性」を育てる「心の教育」の充実を図るため、引き続き、学校現場のニーズを把握し、教育委員会として特色ある教育活動を支援していく。				
評価委員 による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動を知ることにより、今までに見えなかった地域の姿に、子どもたちが気づくことが大切だと思う。</li> <li>・地域の特色を活かした学校の取組は地域の人々との関わりや、ふるさとを愛する児童生徒を育てることにつながり、必要なことである。</li> <li>・引揚記念館の見学などの「ふるさと学習」は舞鶴の児童生徒に必修の事業である。</li> <li>・ふるさとを愛する教育の推進のため、必要な支援である。</li> </ul>			
	有効性	評価点数	4.3		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動に直接触れることにより、地域の人々との交流、産業の理解が進む。</li> <li>・感染症拡大防止のため、活動が制限されたが、各学校工夫しながら、体験活動や地域の人々と触れ合う取組が実施されたのはよかった。</li> <li>・ふるさと人材の活用で、出会った方々の生き方や「子どもはしてもらったように育つ」ように、豊かな人間性の育成にとっても重要な支援事業で、効果がある。</li> </ul>			



評価委員 による 事業の評価		評価点数	4.3	
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ふれあい体験活動事業については、継続・実施していただきたい。</li> <li>・各学校がどのような特色ある活動をしているのかが分かりづらい。「広報まいづる」や新聞等でもっと広報する必要があるのではないか。</li> <li>・毎年同じ取組になっており、新たな学校独自の取組を求める。</li> <li>・人との関わりが子どもたちの大きな財産になっている。それぞれの取組の良さを広報で広く市民に知らせることで、学校は学べるし、地域人材発掘への啓発にもつながると思う。</li> </ul>		

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和3年度事業)

事務事業名	施設整備事業費(小学校・中学校)	担当課	教育総務課	事業No	10
事業費 (R3決算)	127,914 千円	財源内訳	一般財源	32,943 千円	
			地方債	50,500 千円	
			国府補助金等	44,471 千円	
教育振興大綱の該当項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</li> <li><b>2</b> 子どもを育てる教育環境の充実</li> <li>3 ふるさとを愛する教育の推進</li> <li>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</li> <li>5 心豊かな生涯学習の推進</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     学校等における教育環境の充実                 </div>				
事業目的	児童生徒の安全を守り、安心して豊かな教育環境を整備する。				
事業内容	老朽化した校舎や設備を改修し、安全で安心な教育環境の充実のための施設整備				
当該年度の取組成果達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎屋上防水改修工事(倉梯小)</li> <li>・体育館屋根塗装他改修工事(福井小・城南中)</li> <li>・体育館屋上防水改修工事(岡田小)</li> <li>・避難器具取替工事(中舞鶴小)</li> <li>・受変電設備他改修工事(三笠小・城南中)</li> <li>・その他各校の改修工事及び修繕等(275件)</li> </ul>				
課題	今後経年劣化していく学校施設が増加するため、改修等に要する事業費を確保し、計画的な更新が必要である。				
今後の方向性	舞鶴市全体の取組である市有建築物の点検マニュアルに沿って施設点検を行い、不具合箇所を早期発見することで、最小限のコストで健全な状態の維持に努める。また、大規模な改修については、国の動向に合わせ、事業計画の見直しやより有利な財源の確保を検討しながら、遂行する。				
評価委員による事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・経年劣化する学校施設の維持・管理の上で、必須である。</li> <li>・学校が安心・安全な場所になることは児童生徒のみならず地域住民にとっても大変重要なことである。</li> <li>・安心安全な教育環境の整備は、必要不可欠である。</li> </ul>			
	有効性	評価点数	5.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震性能は確保されているので、機能面の充実を図るうえで有効である。</li> <li>・毎年、確実な点検、計画的な改修工事がなされ、学校が安心・安全な場所になっている。</li> <li>・学校数が多い中、「舞鶴市学校施設長寿命化計画」に基づき、計画的に進行されている。今後、児童生徒数が減少することも踏まえ、先を見通した整備が計画・実施されている。</li> </ul>			
	効率性	評価点数	4.3		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方債の活用により取組むなどの対応をされているが、長期的で確実な取組にしたい。</li> <li>・学校現場の要請にさらに応じてほしい。</li> <li>・医療的ケア児を含むバリアフリー化やトイレの洋式化、感染症対策に伴う換気システムなど今後も時代に即した計画的な遂行を願う。</li> </ul>			

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和3年度事業)

事務事業名	学校施設新型コロナウイルス感染症防止対策経費(小学校・中学校)	担当課	教育総務課	事業No	11
事業費 (R3決算)	57,441 千円	財源内訳	一般財源	1,150 千円	
			国府補助金等	56,291 千円	
教育振興大綱の該当項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</li> <li><b>2</b> 子どもを育てる教育環境の充実</li> <li>3 ふるさとを愛する教育の推進</li> <li>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</li> <li>5 心豊かな生涯学習の推進</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     学校等における教育環境の充実                 </div>				
事業目的	児童生徒の安心安全な学習環境を確保しつつ教育活動を継続するため、学校の感染症対策を講じる取組、及び児童生徒の学びの保障をするための取組を支援する。				
事業内容	児童生徒・教職員等の感染症対策をしながら、状況に応じた学校での教育活動・家庭学習を実施し児童生徒の学びを保障するため、学校の規模に応じ予算を配分。感染状況や現場の状況に合わせ、学校の裁量で迅速かつ柔軟な対応を実施。				
当該年度の取組成果達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の感染症対策・学習保障に係る支援経費(消毒用アルコール、サーキュレーター、非接触赤外線検温計、加湿空気清浄機等)</li> <li>・教育環境対策経費(小学校給食室空調設備設置工事費、網戸設置工事費、自動水栓設置工事費)</li> <li>・抗原定性検査キット</li> <li>・修学旅行キャンセル料(中学校)</li> </ul>				
課題	感染症対策や学習保障として購入した備品等の維持管理や、更新時の予算確保が必要となる。				
今後の方向性	今後の感染拡大も見据え、十分な対応をすることができたが、様々な方面から今後も感染症対策をしっかりと行い、児童生徒の安全安心を確保しながら学びを止めない取組を行っていく。				
評価委員による事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の安全確保という点から重要である。</li> <li>・次々に発生する変異種への対応等、学校現場だけでの対応には限界があり、行政が主導し対策を講じる必要がある。</li> <li>・感染症対策としては最も必要な事業である。</li> <li>・学校の感染症対策には、お金がかかる。規模に応じた予算配分と感染拡大防止の情報提供が必要である。</li> </ul>			
	有効性	評価点数	5.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、給食、修学旅行など、多様な活動について対応している。</li> <li>・市教委と学校が常に連絡を取り合い、感染状況にあった対応を学校がとれたことは感染予防にもつながった。</li> <li>・必要、十分な支援がきっちりなされている。</li> </ul>			
	効率性	評価点数	4.7		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの感染の状況など、将来の見通しに不確実性がある。また限られた資源の中だが、安心安全の確保に取組んでいただきたい。</li> <li>・感染の終息が見えないので、今後も行政主導の感染症対策の継続が必要である。</li> <li>・様々な方面からの整備がされている。整備された備品や薬剤の管理、維持について、学校における仕組み作りへのフォローも必要である。</li> </ul>			

#### 4 教育委員会活動の概要

##### (1)教育委員会の開催状況

令和3年度の定例教育委員会は原則として月1回、臨時教育委員会は必要に応じてそれぞれ下記のとおり開催しました。

○定例教育委員会 12回

○臨時教育委員会 3回

##### (2)教育委員会審議等状況

令和3年度は下記の24件の議案について審議しました。

##### 《教育委員会審議案件等一覧》

議案番号	審議事項	審議日
第6号議案	舞鶴市教育委員会職員の人事異動について(専決第1号)	R3.4.19 (定例会)
第7号議案	令和3年舞鶴市議会第1回臨時会提出議案に係る意見について	
第8号議案	学校運営協議会委員の任命について	R3.5.26 (定例会)
第9号議案	令和3年舞鶴市議会6月定例会提出議案に係る意見について	
第10号議案	舞鶴市教育環境の在り方懇話会に関する要綱について	R3.6.25 (定例会)
第11号議案	令和3年舞鶴市議会6月定例会提出議案に係る意見について	
第12号議案	令和4年度以降に使用する市立中学校用教科用図書の採択について	R3.8.11 (臨時)
第13号議案	「令和2年度事務事業点検評価」の結果について	R3.8.24 (定例会)
第14号議案	令和3年舞鶴市議会9月定例会提出議案に係る意見について	
第15号議案	舞鶴市立小学校及び中学校の就学指定校の変更に関する要綱の一部を改正する要綱制定について	R3.9.29 (定例会)
第16号議案	舞鶴市立中学校給食実施要綱の一部を改正する要綱制定について	
第17号議案	教育委員会の所管に係る舞鶴市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例施行規則の制定について	R3.10.19 (定例会)
第18号議案	舞鶴市立小学校の教員の人事に関する内申について	
第19号議案	令和3年舞鶴市議会12月定例会提出議案に係る意見について	R3.11.16 (定例会)

議案番号	審議事項	審議日
第 20 号議案	令和 4 年度教職員の人事異動方針について(専決第 2 号)	R3.12.22 (定例会)
第 1 号議案	教職員の処分内申について	R4.1.11 (臨時)
第 2 号議案	舞鶴市立の小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の サービスに関する規程の一部を改正する訓令の制定について(専 決第 1 号)	R4.1.28 (定例会)
第 3 号議案	舞鶴市立学校におけるハラスメントの防止等に関する規程の 一部を改正する訓令の制定について(専決第 2 号)	
第 4 号議案	令和 4 年舞鶴市議会 3 月定例会提出議案に係る意見につい て	R4.2.15 (定例会)
第 5 号議案	舞鶴市立小学校及び中学校の校長並びに教頭の任免につい て	R4.2.22 (臨時)
第 6 号議案	舞鶴市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務 災害補償に関する条例施行規則の一部を改正する規則制定 について	R4.3.22 (定例会)
第 7 号議案	舞鶴市立の小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の サービスに関する規程の一部を改正する訓令制定について	
第 8 号議案	舞鶴市立の小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の 私有車利用による旅行に関する規程の一部を改正する訓令制 定について	
第 9 号議案	「令和4年度学校教育の重点」について	